



ケータイ・スマホ利用の ライフスタイル研究(1)

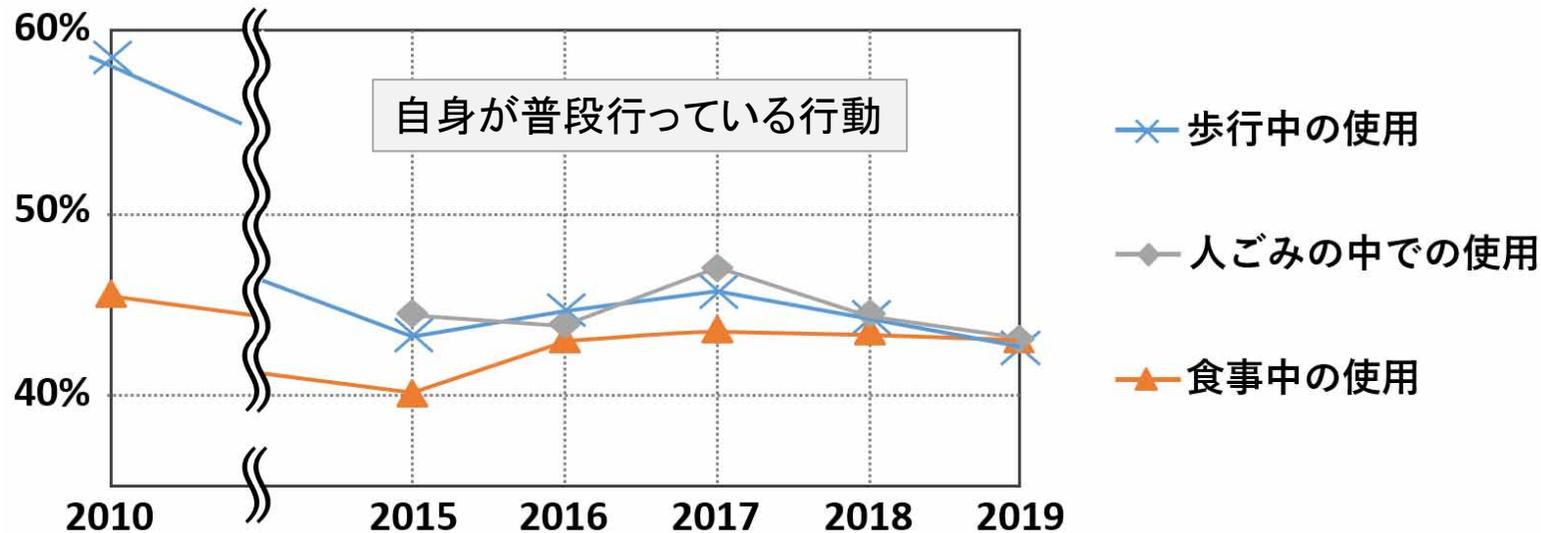
～ながら使用者のライフスタイル特性～

- 吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
- 飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

2019.11.9

1. 問題・方法 P.2~3
2. 調査概要 P.4
3. 調査結果
4. 分析
 - 4-1. ながら使用(3種類)に着目した類型化 P.5
 - 4-2. ながら使用クラスと
ライフスタイルとの関係の検討 P.6~10
5. まとめ P. 11

スマホ／ケータイの「ながら使用」が社会問題として一般に認識されるようになって久しい。⇒ しかし、実態はあまり減っていない。



現在、「ながら使用」を行っている人の傾向とは？

ながら使用について
「歩行中の使用」、「食事中的使用」、「人ごみの中での利用」の3種類に着目し、
基本属性(性・年代・職業等)
ICT利用属性(所有端末、ICTサービス利用状況等)
などのライフスタイルとの関係について分析

方法

Step 1:

自身が普段行っているながら使用の行動

「歩行中の使用」、「食事中的使用」、「人ごみの中での利用」に着目し、類型化(クラスタ分析)を実施

⇒ ながら使用者を複数のタイプに分類

Step 2:

上記の「ながら使用者のタイプ」と「ライフスタイル」との関係をコレスポネンス分析により分析

※ ライフスタイル確認項目

- ・ 基本属性(性・年代・職業 等)
- ・ ICT利用属性(所有端末、ICTサービス利用状況 等)

調査の概要

調査時期 : 2019年1月

調査対象 : 全国の15～79歳の男女

標本抽出法 : クォータ・サンプリング
性別・年齢・居住地(都市規模)で割付
6296サンプル回収※

調査方法 : Web調査

※ 本報告では、スマホ／ケータイを所有する
6136サンプルを用いて分析を実施

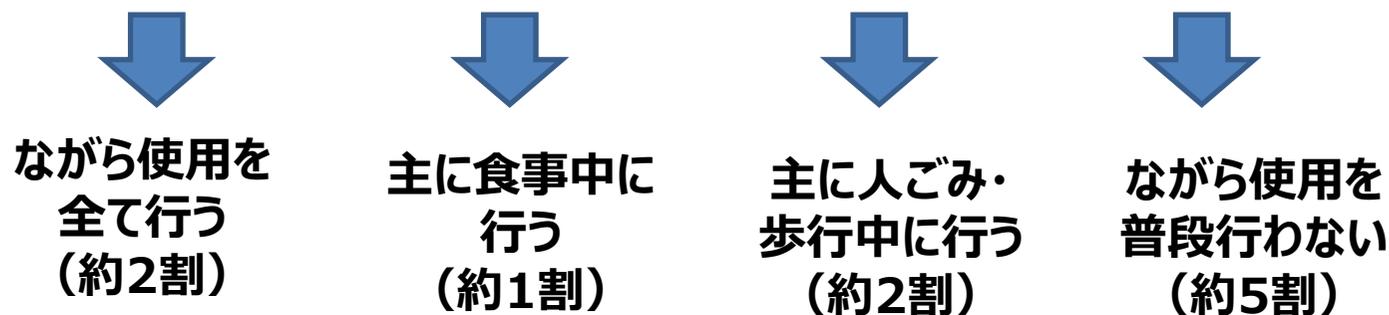
分析 Step1 ~ クラスタ分析 ~

自身が普段行っている行動に関する3設問

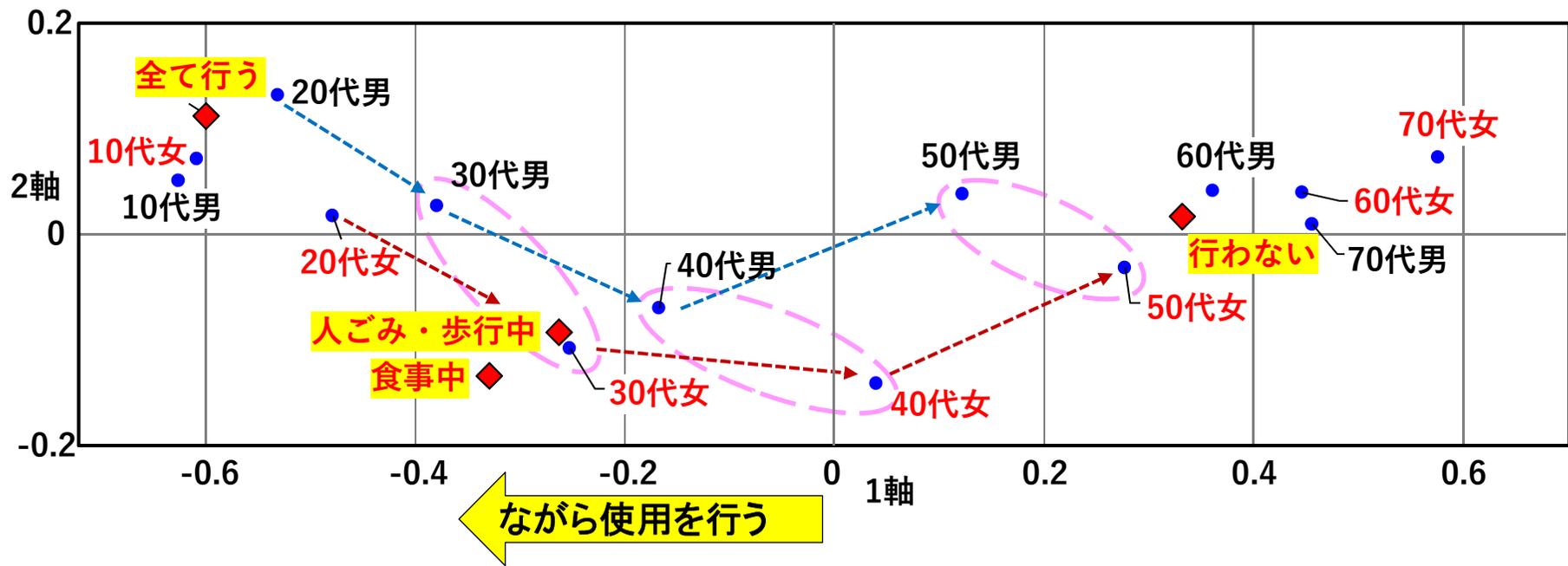
「歩行中の使用」、「食事中の使用」、「人ごみの中での使用」
の回答結果※を用いたクラスタ分析(k-means法)により、4タイプに分類

※ 0点：行っていない ⇔ 3点：とくに気にせず行っている

構成人数 構成比		1064 17.3%	572 9.3%	1130 18.4%	3370 54.9%
設問 \ クラスタ	全て行う	食事中	人ごみ・歩行中	行わない	
歩行中の使用	2.16	0.99	1.33	0.08	
食事中の使用	2.33	2.24	0.55	0.12	
人ごみの中での使用	2.36	0.60	1.32	0.09	

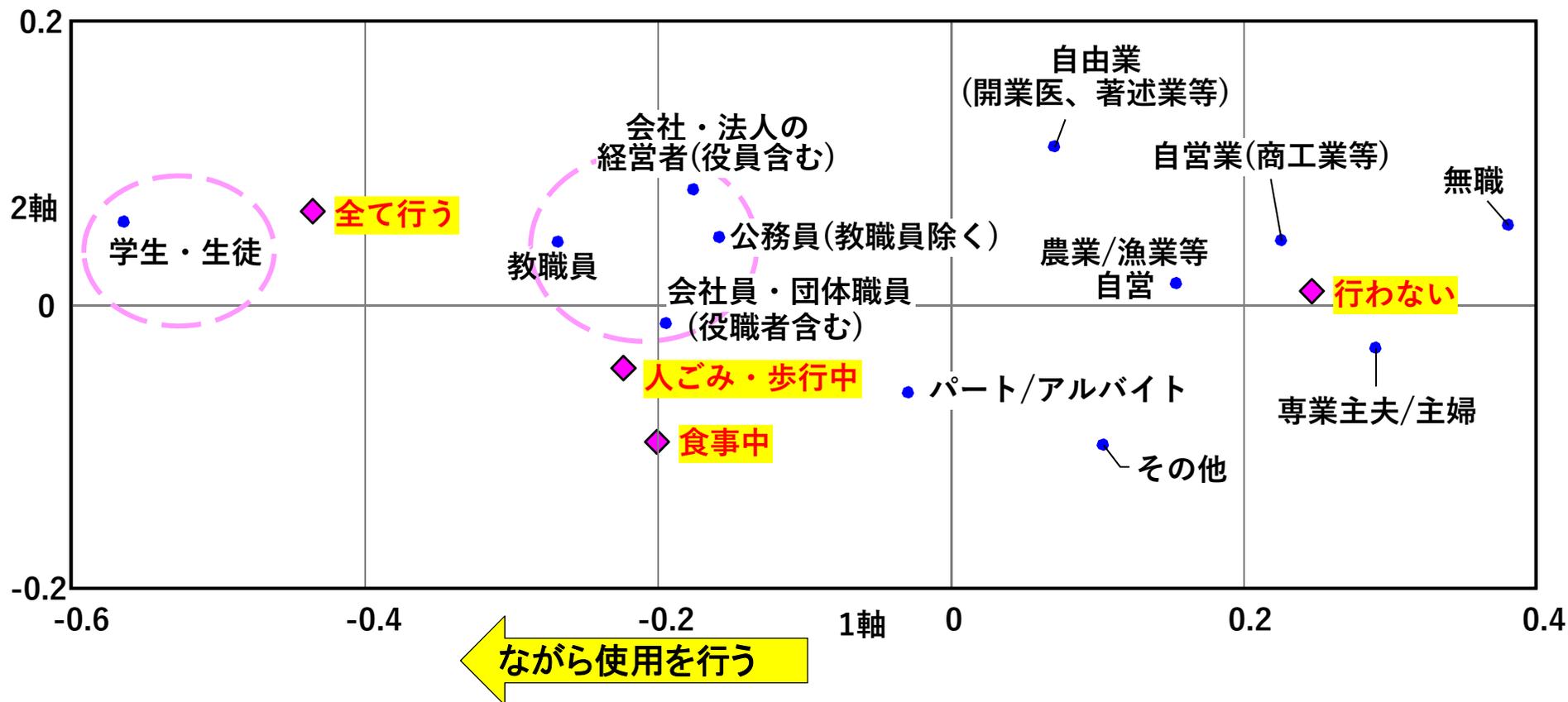


性別・年代と、 ながら使用タイプとの関係



- ⇒ より若い世代において、ながら使用を行う傾向が顕著
- ⇒ 女性よりも男性において、ながら使用を行う傾向が強い（「全て行う」多い）
- ⇒ 男女による差異は30～50代にて大きい

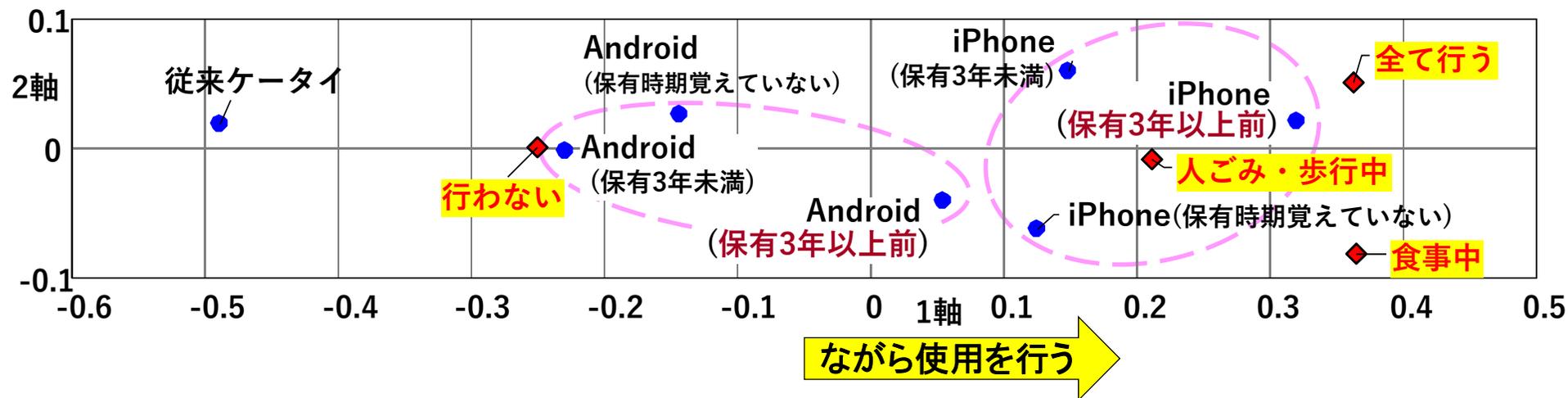
職業と ながら使用タイプとの関係



⇒ ながらスマホを行う傾向が最も強いのは 学生・生徒

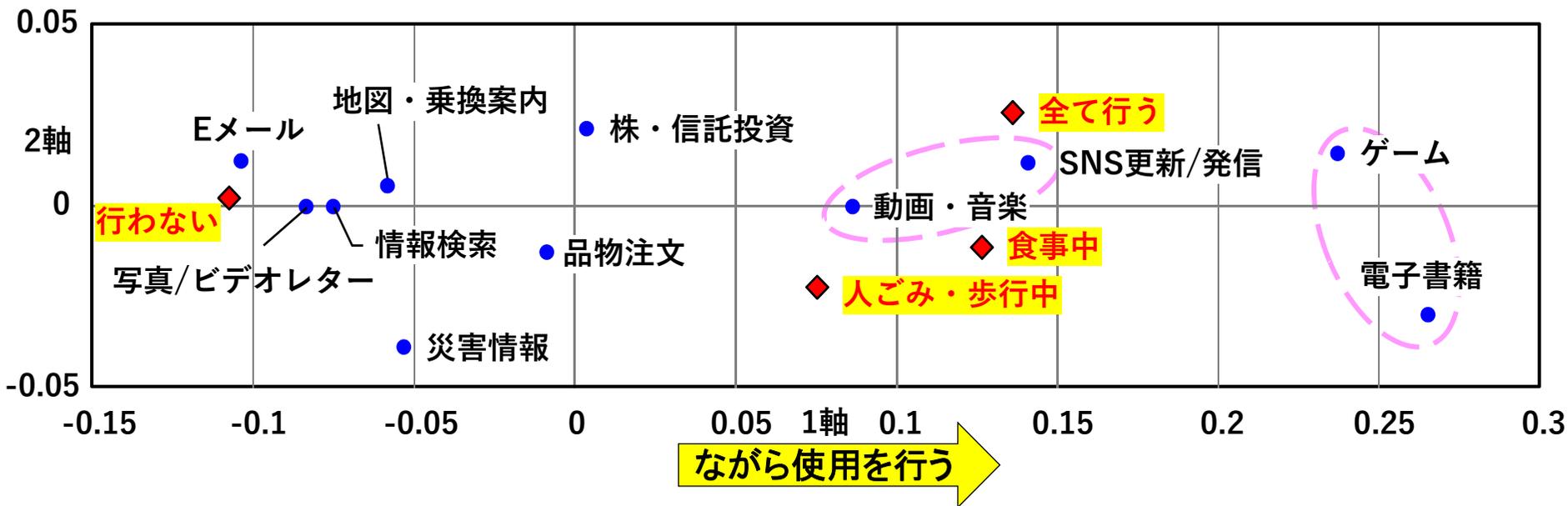
⇒ 教職員、会社員・団体職員、会社経営者、公務員もスマホを行う傾向

所有端末と ながら使用者のタイプとの関係



- ⇒ スマホ利用者は従来ケータイ利用者よりも ながら使用を行う傾向
- ⇒ iPhone利用者はAndroid利用者よりも ながら使用を行う傾向
- ⇒ スマホ保有期間が長い方が ながら使用を行う傾向

ICTサービス利用状況と ながら使用タイプとの傾向

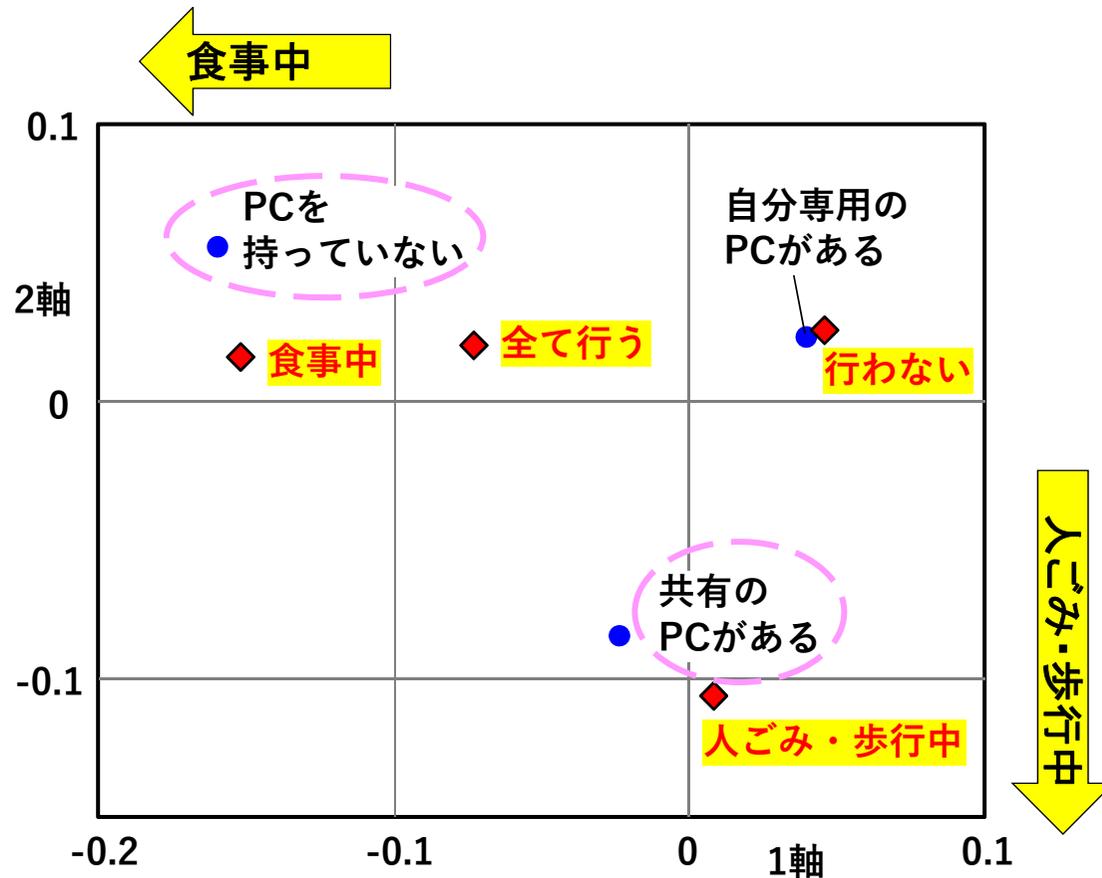


電子書籍、ゲーム、SNS更新/発信、動画・音楽に関するサービス利用者

⇒ ながら使用を行う傾向が強い

(注: 電子書籍やゲーム等のサービスが「ながら使用」されているかどうかは全く定かでは無い...)

PC所有とながら使用タイプとの関係



⇒ PC非所有者の場合、食事中に使用を行う傾向

⇒ 所有PCが共有の場合、人ごみ・歩行中に使用する傾向

「歩行中」、「食事中」、「人ごみの中」に着目し、ながら使用者をタイプ分類
⇒ 各々のタイプとライフスタイルとの関係进行分析、以下の傾向を確認

◆ながら使用を全般的に行う人の傾向

- ・年齢が若い
- ・男性
- ・学生、教職員、会社員、会社経営者、公務員
- ・iPhone利用者
- ・スマホを持ってから3年以上経過
- ・電子書籍やゲームに関するサービス利用者

スマホ／ケータイのながら使用は、性別や年代だけでなくICT利活用の状況とも関係している。



現時点では特に若い世代でながら使用行う傾向が強いが、シニア世代でもながら使用を行う人の割合が徐々に高まることが考えられる。

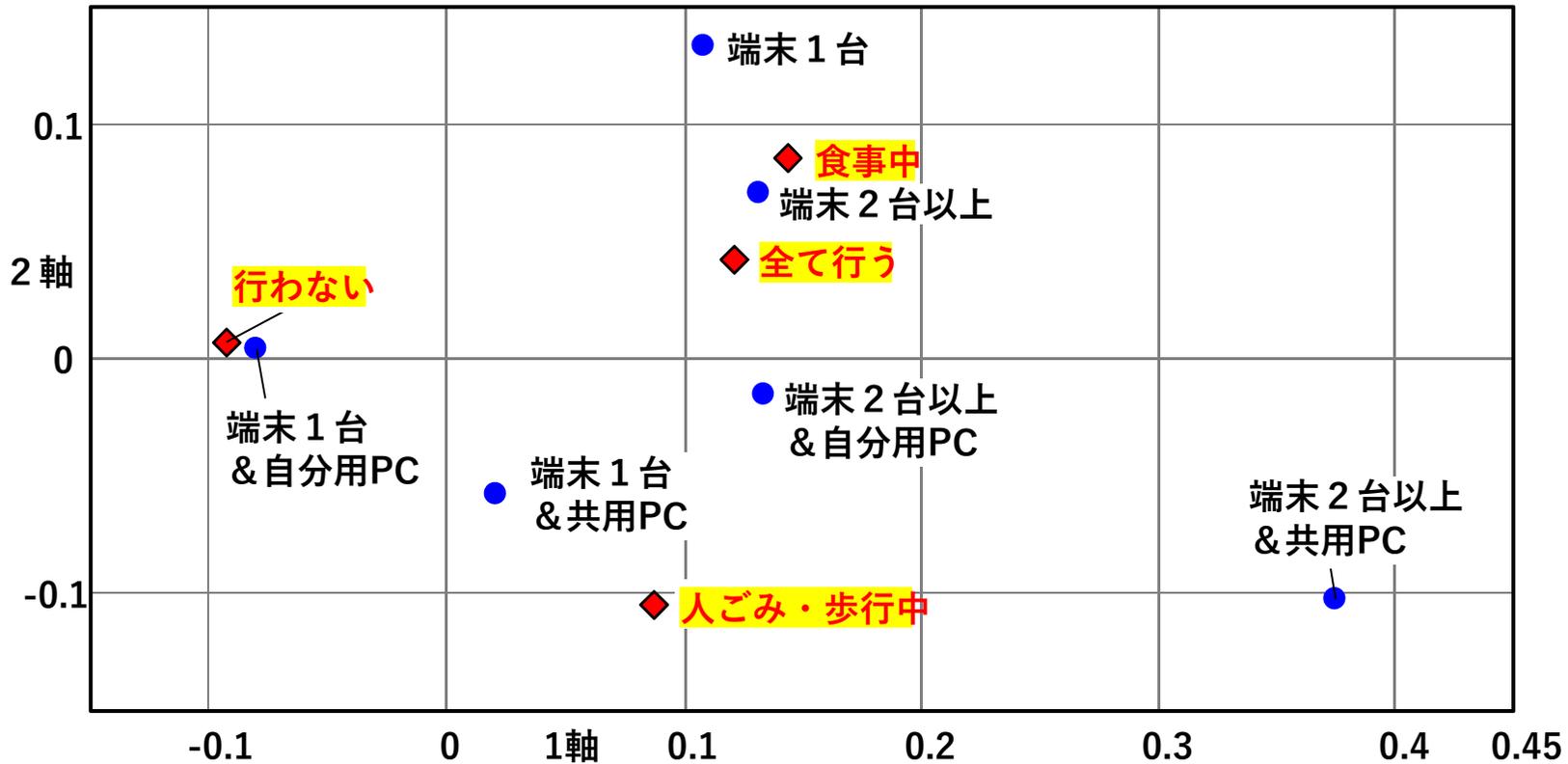
⇒ ながら使用の実態やトラブル等について継続して調査したい

ご清聴ありがとうございました。

参考) ～ コレスポネンス分析 ～

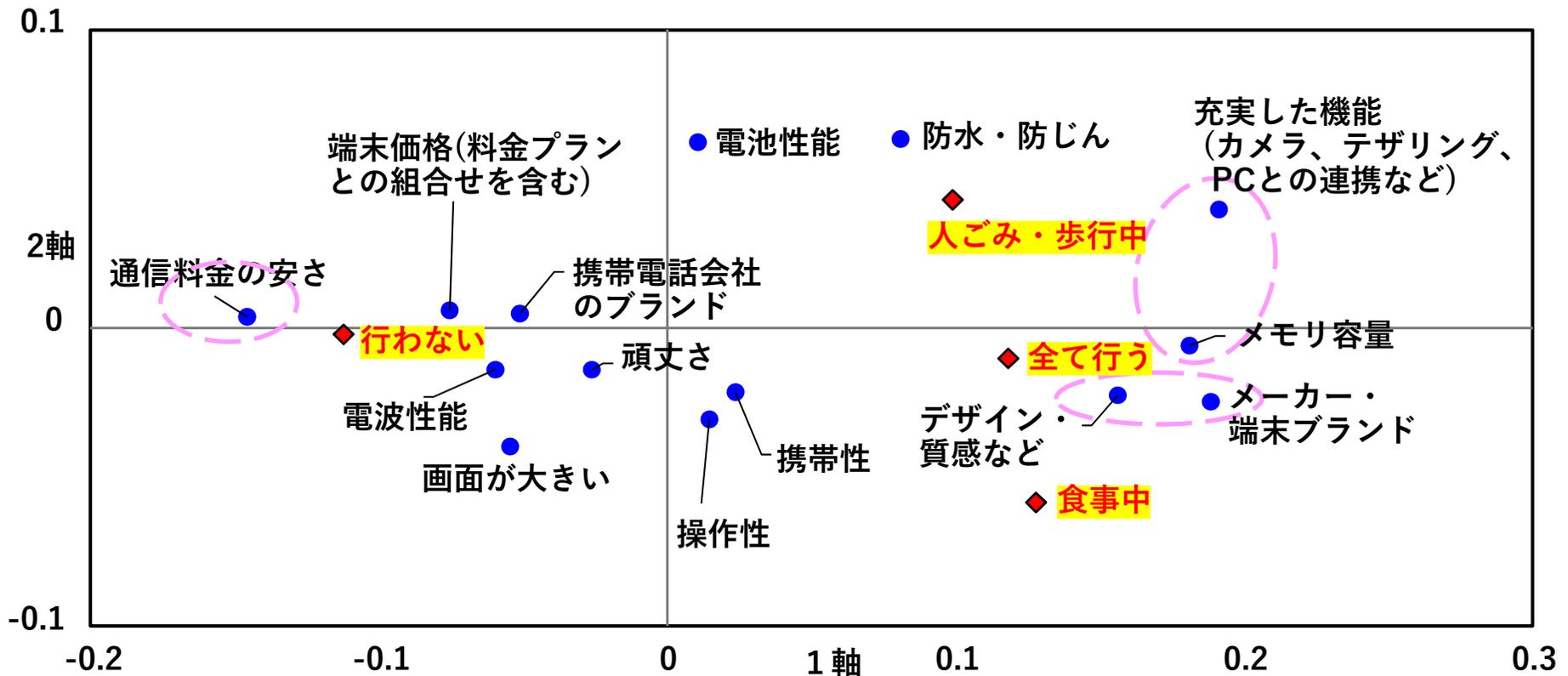
参考

端末複数台所有 & PC所有と ながら使用タイプとの傾向



⇒ 端末を2台以上所有する人は ながら使用を行う傾向

端末購入時の重視ポイントと ながら使用者のタイプとの関係



⇒ メモリ容量や多機能を重視する人は ながら使用を行う傾向

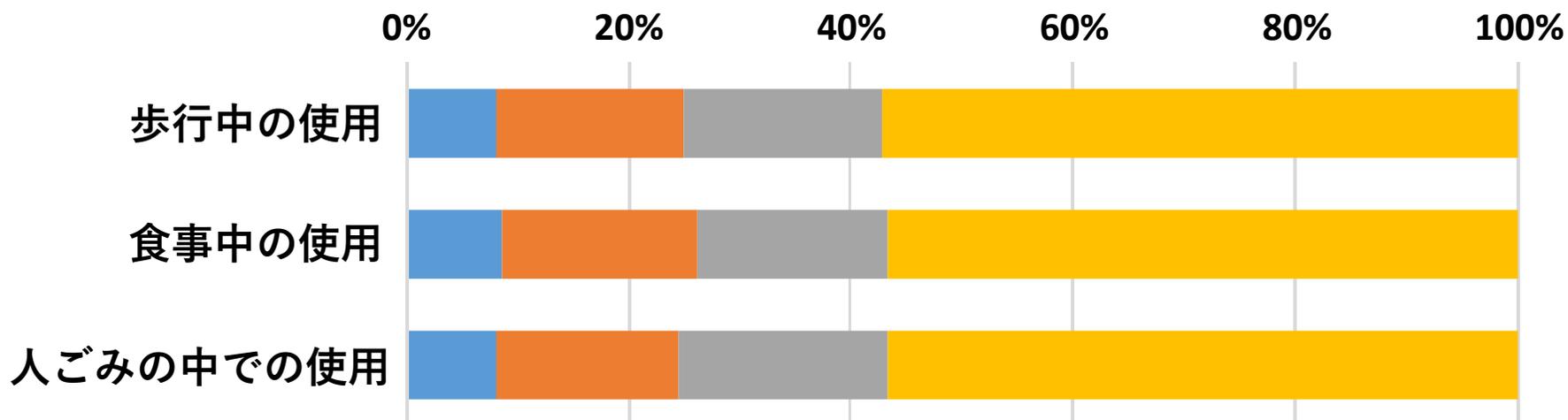
⇒ デザイン・質感や端末ブランドを重視する人は ながら使用を行う傾向

⇒ 通信料金の安さを重視する人は ながら使用を行わない傾向

自身が普段行っている行動（単集計）

あなたが普段スマホ・ケータイを使って行っている行動について教えてください。

- とくに気にせず行っている
- 多少気になるが行っている
- 状況に迫られて仕方なく行っている
- 行っていない



コレスポネンス分析結果の補足情報

性・年代	1軸	2軸
固有値	0.146	0.006
単相関係数	0.382	0.075
各軸の説明度	95.1%	3.6%
p値	0.000	0.001

職業	1軸	2軸
固有値	0.079	0.002
単相関係数	0.281	0.045
各軸の説明度	95.7%	2.4%
p値	0.000	0.332

所有端末	1軸	2軸
固有値	0.078	0.001
単相関係数	0.280	0.033
各軸の説明度	98.3%	1.4%
p値	0.000	0.371

サービス利用	1軸	2軸
固有値	0.012	0.000
単相関係数	0.110	0.016
各軸の説明度	97.3%	2.0%
p値	0.000	0.701

PC所有	1軸	2軸
固有値	0.004	0.003
単相関係数	0.065	0.050
各軸の説明度	62.7%	37.3%
p値	0.000	0.000

端末&PC	1軸	2軸
固有値	0.011	0.003
単相関係数	0.103	0.055
各軸の説明度	75.8%	21.9%
p値	0.000	0.002

重視ポイント	1軸	2軸
固有値	0.013	0.001
単相関係数	0.113	0.028
各軸の説明度	90.1%	5.5%
p値	0.000	0.341

変数間の相関

相関					
	性年代	現在の職業	スマホ・ ケータイの 種類	パソコンを お持ちです か。	スマタブ保 有歴／従来 ケータイ
性年代	1	0.309	-0.303	-0.244	0.273
現在の職業	0.309	1	-0.137	-0.079	0.135
スマホ・ケータイの種類	-0.303	-0.137	1	0.114	-0.337
パソコンをお持ちですか。	-0.244	-0.079	0.114	1	-0.126
スマタブ保有歴／従来ケータイ	0.273	0.135	-0.337	-0.126	1

** 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。